

水害があると土地が肥えるからそれを糧に生活してきたのかな

弓野耕平さん（六十代）
弓野初江さん（六十代）

これまでの水害と台風十九号

〈耕平さん〉一番古い大きな水害っていうと昭和の六十一年、六十三年かな。その時は、水害が起こった日には別の場所に行ったんですけど、水害のことを聞いて戻ってきたら庭には完全に水が来てて、家には少し入るか入らないかぐらいだった。こっちはある程度助かったけど根本町は天井あたりまで水が来てた。平成に入ってから水害は何回かあったけど、ここは助かってて、台風十九号は久しぶりの水害。

〈初江さん〉周りの近所、お年寄りの方たちが今までかかってない台風だったって。ここら辺は二階建てだし水害があっても、上に逃げてれば大丈夫だっていうのもあって。だから、避難指示が出ても床上に上がらないから大丈夫、かえって赤ちゃんなんか避難するのは危ないからって二階にいたんですよ。そしたらあつという間に水がバーッと来ちゃったもんだから、ヘリコプターとか救助ボートで避難という形になりました。

〈耕平さん〉避難するタイミングの難しさってあるよね。実際に近所の人でも、一旦危ないからと言って逃げたら家に戻れなかった方もいるし。別々の避難体制になっちゃう可能性もあるしね。

〈初江さん〉修復は大体終わってるけど、

帰ってきてない人もいるね。ある程度高齢になつて方なんかは、今更直してこっちに来てまた水害に遭うかもしれないって、別なところに住んでらっしゃる方もいれば、新しいところに再出発するんだったら、みんなの助けを借りてこの地元でっていう方、新しい環境には慣れなかったって言うて徐々に戻ってきてる方もいるし、難しいですよ。

農業と土地の管理

〈耕平さん〉うちの代の前はみんな農業が主だよ。私達の年代からはもう兼業農家。

最近結構放置してそうだから大変だと思うよね。今後ここで住んでいく大人にどうやって管理されるのか一番心配。

〈初江さん〉死んだときに、ここ（放置している土地が）ほとんどない状態に、なるべく子どもや孫たちに迷惑かからないように。それがね、もうここは自然に溢れてて。いっぱいありすぎて言ったらいいところもあるけど、後々、管理とか考えたらどうなのか。後ろに娘たちが家を建てたけど、やっぱり来るにあたってはきつといろいろ考えましたもんね。

コミュニティの変化

〈初江さん〉私は一応街中からお嫁に来たので。この土地に憧れて、嫁いできたんだけど、大変でした。

うちは共働きだったから、わからなかったけど、ここで本当にお嫁さんとして生活するのは皆さん大変。嫁に来たときは田

舎ってこんな大変なんだって思いました。

お祭りとかはそのときの私たちがぐらいの年代の人たちが中心になってやるから、嫁の立場の私達は、お祭りにしてもお葬式にしても下働きですよ。お葬式なんかで言えばほとんど部屋の中には入らないで、外での煮炊きをやりました。

〈耕平さん〉前からそういう風習でやってるから、暗黙の了解やね。今はもう全然冠婚葬祭の手伝いはなし。だからコミュニティがなくなつたね。個人個人でやってるのがこの地域だね。防災の備蓄の品とかは市民センター頼り。

前は葬式とか助け合っていて、それがコミュニティだよ。葬式やってるんだけど実際はその中のコミュニティの問題点をいろいろ話し合ったり、どっかに旅行に行きましようとか。花見に行くんだけど何やりましようって、地域のコミュニティがあつた。手伝いもないということとははもう、話す場所がないんで。ですから、昔の村社会から、皆さんが住んでるような個人個人の世帯になつちやつてるのかな、この辺もね。

〈初江さん〉私の子どもたちが小中学生の頃は子ども会がすごく盛んで、毎週のようにありました。毎週土日はもう子ども会の行事だ何だで潰れて、フルに働いてるから、土日がなかったら家のこといつやるのよという状態が毎週あったんですよ。それがだんだん、子ども会に参加しない人たちが出てきて、どんどん子どもたちの数が減ってきて。だから、そういうのが少しづつ増えてきて、もう今は子ども会が集まりもないですからね。

男の人たちはなんだかん地地域の集まりみたいなのがあったけど、私なんかは子ども会の集まりがなくなったら、地域との繋がりが、全然。皆仕事を辞めたり、おばあちゃんになってやっとな懐かしいですねって、お子さん今何してんのかなみたいな感じで復活する流れだね。

〈耕平さん〉昔のコミュニティがどこでもなくなっちゃって、行政も大変だからってコミュニティを作ってくださいっていう感じでしょ。

昔は自分たちで使う道路だから、自分たちで道が悪ければ直すとか、道路の脇に草があるから草刈りやるとかいうのが昔あったんだらうけど、それがどんどんなくなっただけで、みんな行政が対応するようになった。

水害の不安について

〈耕平さん〉水害の頻度が今度十年に一回とかになれば変わってくると思うんだけど、今のところはそこまでのやつはないんで引越はは大丈夫かなとは思ってはいるけどね。

〈初江さん〉娘たちはちよっと考えたみたいですよ。これから子どもを育ててここでやっていこうって思うのに、家を建てて一年目で水害になって、果たして今後どうなんだらうかっていう。今年だって台風は少なかつたけど、台風が来ればやっぱり大丈夫だろうかってドキドキしながらいます。十九号の時は孫たちが〇歳と三歳で、三歳の子が一人で吊り上げられたんですよ、ヘリコプターに。その恐怖っていうのは今でもやっぱり水が来てるのを見れば、しば

らくは見たくないって怖いって言ったり、インプットされてるわけですよ。子どもらは言わなくなつたけど、怖かつたよねって言いながらずっといたんです。だからそういう思いをもうさせたくはないし、でもこればかりはわかんないしね。

友人の助け

〈耕平さん〉周りの方はボランティアの方が入ってくれましたし、昭和のときにはこの地域の方で炊き出しなんかやってくれたって話します。被災に合っていない方が被災しているところに行つて、みんな協力し合うのはまだ残つてると思っています。

〈奥さん〉公的ボランティアの話が出たときには、もううちはほとんど自分たちでできるから、周りの方のところにお手伝い行つてくださって言つて、うちとしては全然ボランティアの方にはお願いはしなかつたんですが、お友達に来ていただきましたね。いろんな方が来てくれてそういう面では、本当に幸せでした。家族だけで水を含んだものを出して運んでなんていうのは、とてもじゃなく大変だけど、みんな被害があつた日から電話とかで、明日から手伝いに行くからって言つてくださつて。

地域っていうか、社会との繋がりがみたいなのが外にあつたから、いろんなところから来てくれて。

でも現役だったら、手伝いにこられないんですよ、仕事がありますから。家のことはやつてられないしね。行政も、人のことはやるけど、家のことはもう何もできんね。〈耕平さん〉家のことは心配だけど二の

次になつちやうよな本当に。特に私達は市役所（職員）なんで、地域のためについていうところで、自分の家は全て後回ししたよね。初めて今回自分の片付け優先できたっていう。

以前までは自分でも水害に遭つてるけど、自分の家のことは無視しながら人のことをやんなきゃならないっていう変な感じがあつた。いろんなところに片付けに行つたり、避難してくださいとかやつて、自宅が心配だけど大丈夫だろうと思いつつ、ずっとそういう生活してた。

ネットが繋がらなかつた

〈耕平さん〉この前の水害のときはネットが全然繋がらなかつた。だから那珂川が氾濫するって情報も全然テレビでも出なかつた。今までの経験上だと那珂川がどうなつてるといふのが結構テレビで情報が得られるんだけど、他の地域ばかりで那珂川の話は今回は全然なし。

朝方、四時頃繋がった人がいて、上流が引いてきたから下がるんじゃないの、そういう話で。

那須辺りで水害が起きた時はその水が八時間後にこの辺に到着するんだよね。今回は、ちよっと短かつたみたい。五、六時間で流れてた。どんどん整備されると真っ直ぐなるから、流れがあるので早くなつたのかもわかんないけど。

過去にここは晴れてるのに水害が起きたことがある。経験としては那珂川、那須辺りで雨が降った時に水害になるイメージが多い。だいたいこの辺で降つた雨つてのは

ね。田んぼとか治水として蓄える力があるから